

大学スポーツにおける組織マネジメントに関する一考察

吉田卓史¹

大学スポーツのさらなる発展とガバナンス体制の強化を目指し大学スポーツ協会（以下 UNIVAS）が 2019 年に設立された。コロナ禍においては感染対策に重点をおいた組織マネジメント及び大会運営を余儀なくされている。今年度に入り徐々にではあるが大学クラブ・サークル活動も通常通りに再開し、学生たちのスポーツを打ち込む姿がキャンパスに戻ってきた。

UNIVAS が設立された本来の目的である「大学スポーツの発展」に向けて改めて各大学や競技団体におけるスポーツ組織のマネジメント体制の強化は欠かすことができない。

そこで本論文では設立し 3 年が経過した UNIVAS と各競技団体の取り組みを理解するとともに各大学におけるスポーツ組織のマネジメントについて検討してみたい。

キーワード：大学スポーツ UNIVAS アスレチックデパートメント

1. はじめに

2020 年より世界中に蔓延した新型コロナの問題はスポーツ界にとっても大きく影響を及ぼした。特にアマチュアスポーツ、中でも学校部活動においては活動中止、大会中止、部員勧誘等生徒学生たちにとっては大変な状況であったことはいままでのない。しかし漸く 2021 年に開催された東京オリンピックを含めトップスポーツ、プロスポーツが先駆けて通常通りの運営を再開、そして 2022 年には部活動を含めたアマチュアスポーツにおいても日常が戻りスポーツを楽しむ学生たちの姿が見受けられるようになった。

また設立から 3 年が経過した大学スポーツ協会（以下 UNIVAS）の活動も各全国大会のオンライン配信の充実、安心安全認証制度の制定など機能面では充実している。一方新規加盟登録大学の伸びの鈍化、加盟大学及び所属学生アスリートの UNIVAS を有効的に活用できていないなど発展途上である。

そこで本論文では 2019 年に報告した UNIVAS 設立後の大学スポーツの展開に関する一考察の第二報として大学スポーツの現状について見識を深めるとともに、大学スポーツをより発

¹ 福山大学経済学部経済学科 yoshida@fukuyama-u.ac.jp

展させるための各大学におけるスポーツ組織のマネジメントについて考察するとともに、本学における大学スポーツの組織マネジメントについても検討してみる。

2、大学スポーツの現状と課題

2.1 大学スポーツ協会 UNIVAS²の加盟団体

2022年10月時点で大学スポーツ協会への加盟数は219大学である。設立年度は222大学の加盟があったため若干ではあるが減少している。設立年度以降新規に加盟した大学は4大学である。京都橘大学(21.10)、流通科学大学(22.4)、北海道科学大学(22.5)、立正大学(22.6)一方退会した大学は短期大学部を含め7大学である。UNIVASでは加盟大学に対する取り組みは毎年充実しているが、新規加盟にはつながっていない。このあたり今後取り組むべき課題である。

中国地方では10大学が設立年度より加盟している。加盟大学は以下の通りである。

広島県：広島大学 広島経済大学 広島国際大学 広島修道大学 広島文化学園大学

岡山県：IPU 環太平洋大学 岡山商科大学

山口県：山陽小野田市立山口東京理科大学 至誠館大学 山口大学

また中央学生競技団体の加盟数も32団体4連携会員と設立年度よりほぼ変化はない。設立年度以降新規加盟競技団体は以下の通りである。

一般社団法人全日本学生馬術連盟、一般社団法人全日本フルコンタクト空手コミッション、一般社団法人全日本テコンドー協会

表1 UNIVAS加盟大学数

地域	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
加盟校数	8	11	69	42	47	10	9	22

表2 UNIVAS加盟大学数(中国地方)

県	広島	岡山	山口	島根	鳥取
加盟校数	5	2	3	0	0

2.2 UNIVAS の新たな取組

UNIVASは2019年3月の設立以来大学スポーツの発展と価値ある人材育成を目的に5つのテーマに沿って展開している。まず学内での位置づけの明確化を含めた「組織体制の整備」、

² 大学スポーツ協会 UNIVAS <https://www.univas.jp/>

人材育成の観点で「学業充実・意識改革」「安心安全・環境整備」そしてさらなる発展をめざした「コンテンツ価値の向上」「サービスプラットフォームの開発」である。設立以来様々な施策を取り組んでいる中、2021年度以降において以下のような新たな取組に着手している。

表3 UNIVASCUP 2022指定競技全国大会実施状況

競技	主催団体	大会名
1 野球	公益財団法人全日本大学野球連盟	全日本大学野球選手権大会
2 アーチェリー	全日本学生アーチェリー連盟	全日本学生アーチェリー王座決定戦/女子王座決定戦
3 ゴルフ	日本学生ゴルフ連盟	全国大学/女子大学ゴルフ対抗戦
4 なぎなた	公益財団法人全日本なぎなた連盟	全日本学生なぎなた選手権大会
5 テニス	全日本学生テニス連盟	全日本学生テニス選手権大会
6 レスリング	全日本学生レスリング連盟	全日本学生レスリング選手権
7 ボクシング	一般社団法人日本ボクシング連盟	全日本大学ボクシング王座決定戦
8 水泳	公益財団法人日本水泳連盟	日本学生選手権水泳競技大会(競泳、水球、飛込、AS)
9 カヌー	全日本学生カヌー連盟	全日本学生カヌースプリント選手権大会
10 ソフトテニス	日本学生ソフトテニス連盟	全日本学生ソフトテニス大会
11 ボート	公益社団法人日本ボート協会	全日本大学選手権大会(ボート)
12 ソフトボール	全日本大学ソフトボール連盟	全日本大学ソフトボール選手権大会(男子、女子)
13 テコンドー	全日本テコンドー協会	全日本学生テコンドー選手権大会
14 フライングディスク	一般社団法人日本フライングディスク協会	全日本大学アルティメット選手権大会
15 柔道	一般財団法人全日本学生柔道連盟	全日本学生柔道体重別選手権大会
16 トライアスロン	公益社団法人日本トライアスロン連合	日本U23トライアスロン選手権
17 スポーツ射撃	日本学生ライフル射撃連盟	全日本学生スポーツ射撃選手権大会
18 サーフィン	一般社団法人日本学生サーフィン連盟	秋季日本学生サーフィン選手権大会
19 馬術	公益社団法人日本馬術連盟	全日本学生馬術大会2022
20 ホッケー	日本学生ホッケー連盟	全日本学生ホッケー選手権大会
21 ハンドボール	全日本学生ハンドボール連盟	全日本学生ハンドボール選手権大会
22 オリエンテーリング	公益社団法人日本オリエンテーリング協会	日本学生オリエンテーリング選手権(ロング)
23 少林寺拳法	一般財団法人少林寺拳法連盟	少林寺拳法全日本学生大会
24 アメリカンフットボール	公益社団法人日本アメリカンフットボール協会	全日本大学アメリカンフットボール選手権
25 ラグビー	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	全国大学ラグビーフットボール選手権大会
26 空手	一般財団法人全日本学生空手道連盟	全日本大学空手道選手権大会
27 バレーボール	一般財団法人全日本大学バレーボール連盟	全日本バレーボール大学男女選手権
28 ウェイトリフティング	公益社団法人日本ウェイトリフティング協会	全日本大学対抗ウェイトリフティング選手権大会(男女)
29 バスケットボール	一般財団法人全日本大学バスケットボール連盟	全日本大学バスケットボール選手権大会
30 スポーツチャンバラ	一般社団法人日本スポーツチャンバラ学生連盟	全日本学生スポーツチャンバラ選手権大会
31 スキー	公益社団法人全日本学生スキー連盟	全日本学生スキー選手権大会
32 グライダー	公益財団法人日本学生航空連盟	全日本学生グライダー競技大会
33 スキー	公益社団法人全日本学生スキー連盟	全日本学生スキー選手権大会
34 オリエンテーリング	公益社団法人日本オリエンテーリング協会	日本学生オリエンテーリング選手権(ミドル)

1、「UNIVAS Safety and Security Certification 制度の制定」

スポーツ現場における「安心安全」に取り組める環境整備は大変重要である。UNIVASにおいてもこれまで「安心安全ガイドライン」新型コロナウイルス対策としての「大学スポーツ活動再開ガイドライン」を作成し公開している。これらのガイドラインを含め、適切な安全対策を推進している大学に対して認証を行う制度を2021年に構築した。これまで認証を受けた大学は10大学で、中国地方ではIPU環太平洋大学が認証を受けている。

2、MY UNIVAS 配信の拡充

UNIVAS 加盟大学及び所属学生向けのオンラインサービスを2020年より展開している。各団体でのメンバー管理支援が主な機能であったが、徐々にサービスを拡充。とくに「ONE TAP SPORTS for UNIVAS」として所属学生並びにスタッフの健康状態を適切に管理できる機能を追加。アプリによって簡易に体調管理できるだけでなくチーム内のデータ管理も簡易になって

いる。

3, デュアルキャリア

UNIVAS では設立当初より「卓越性を有する人材」排出するために学習面での支援も行ってきている。2021 年 12 月には運動部学生が学修へ意欲を持って取り組めることを目的とした「運動部学生の学習支援となる単位数めやす」を策定した。

合わせて「リーダーズキャンプ」「コミュニケーション講座」「自己認識力養成プログラム」等学生自身のキャリアアップ向上のための施策も随時開催している。さらには教職員の運動部管理者向けのマネジメントセミナーも開催している。

4, UNIVAS CUP

競技横断型大学対抗戦である「UNIVAS CUP」を開催。会員となっている 32 競技団体が開催する全国大会の結果によってポイントを加算し順位を決定している。またこれらの大会は UNIVAS が主体となり LIVE 配信を実施。HP あるいはアプリよりリアルタイムで競技の様相を視聴することができる。さらに視聴環境を充実させるべく「UNIVAS プラス」アプリを開発。各競技のライブ及びアーカイブ配信の視聴だけでなく、有料プランを用意しマルチデバイスなどプレミアム会員を増やすとともにその収益を大学スポーツ振興に還元できる仕組みを確立している。

2.2 主要競技全国大会における出場チームの UNIVAS 参加状況

大学野球の場合、第 71 回全日本大学野球選手権（2022 年 6 月@明治神宮野球場、東京ドーム）では出場全 27 大学のうち UNIVAS 加盟大学は 23 大学、非加盟大学 8 大学で 70%（2019 年度 87%）が加盟している。また第 53 回記念明治神宮野球大会大学の部（2022 年 11 月@明治神宮野球場）では出場 11 大学のうち UNIVAS 加盟大学は 9 大学、非加盟大学は 2 大学で約 82%（2019 年度 82%）が加盟している。

サッカーでは 2021 年度第 70 回全日本大学サッカー選手権大会では出場 24 チーム中 UNIVAS 参加大学が 18 大学、非加盟大学が 6 大学で 75%（2019 年度 71%）の大学が加盟している。また 2022 年度第 46 回全日本大学サッカートーナメントでは出場 24 大学のうち 19 大学が加盟、非加盟大学が 6 大学で加盟率は 79%（2019 年度 83%）となっている。

いずれの競技においても 3 年前と比較しても大きな変化は見られない。野球やサッカーのような主要種目では各大学での支援体制の充実とともに UNIVAS への加盟している大学が全国大会へ駒を進めるケースが多い。

次に主要競技の地域リーグ 1 部に所属している大学の UNIVAS 加盟状況を表 4 に表す。サッカーの場合、各地域リーグ 1 部に所属している大学の UNIVAS 加盟率は全国で 71.6%、野球の中国四国地区の加盟率は 72.2%と 7 割以上が UNIVAS に加盟している。一方それぞれの競

技の2部リーグに所属する大学ではサッカーの場合78大学中39大学の50%、野球の中国地区では広島六大学野球が6大学中5大学加盟しておりその割合は83%となる。中国大学野球では1部リーグが50%の加盟率になり、中国地区大学野球全体では1部66%、2部以下の仮リーグ所属大学で見ると14大学中UNIVAS加盟が3大学と少なくなっている。これは前回の報告同様に上位リーグに所属する大学の多くは大学をあげての強化策を行い、必然的にUNIVASへの加盟につながっていると考えられる。なお、令和5年1月に開催される箱根駅伝では出場20大学のうち、加盟が14大学の70%となっている。

表3: 全国大会出場大学のUNIVAS加盟状況
令和4年度 第71回全日本大学野球選手権大会

	地区	大学名	UNIVAS
1	北海道学生野球連盟	東京農業大学北海道オホーツク	○
2	札幌学生野球連盟	東海大学札幌キャンパス	○
3	北東北大学野球連盟	富士大学	○
4	仙台六大学野球連盟	東北福祉大学	○
5	南東北大学野球連盟	東日本国際大学	○
6	千葉県大学野球連盟	千葉経済大学	
7	関甲新学生野球連盟	上武大学	○
8	東京新大学野球連盟	流通経済大学	
9	東京六大学野球連盟	明治大学	
10	東都大学野球連盟	亜細亜大学	
11	首都大学野球連盟	東海大学	○
12	神奈川大学野球連盟	神奈川大学	
13	愛知大学野球連盟	名城大学	○
14	東海地区大学野球連盟	静岡大学	○
15	北陸大学野球連盟	金沢学院大学	○
16	関西学生野球連盟	近畿大学	○
17	関西六大学野球連盟	大阪商業大学	
18	阪神大学野球連盟	天理大学	○
19	近畿学生野球連盟	和歌山大学	
20	京滋大学野球連盟	佛教大学	○
21	広島六大学野球連盟	近畿大学工学部	○
22	中国地区大学野球連盟	環太平洋大学	○
23	四国地区大学野球連盟	松山大学	○
24	九州六大学野球連盟	福岡大学	○
25	福岡六大学野球連盟	九州共立大学	○
26	九州地区大学野球連盟 北部	日本文理大学	○
27	九州地区大学野球連盟 南部	宮崎産業経営大学	
			70.4

令和4年度第53回明治神宮野球大会

1	北海道2連盟代表	東京農業大学北海道オホーツク	○
2	東北3連盟代表	仙台大学	○
3	東京六大学代表	明治大学	
4	東都代表	國學院大學	○
5	関東5連盟代表	上武大学	○
6		国際武道大学	○
7	北陸・東海3連盟代表	名城大学	○
8	関西5連盟代表	大阪商業大学	
9		関西大学	○
10	中国・四国3連盟代表	環太平洋大学	○
11	九州3連盟代表	九州共立大学	○
			81.8

表4: 全国大会出場大学のUNIVAS加盟状況(サッカー)

2021年度第70回全日本大学サッカー選手権大会				2022年度第回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント			
	地区	大学名	UNIVAS		地区	大学名	UNIVAS
1	北海道	札幌大学		1	北海道	札幌大学	
2		東海大学札幌校舎	○	2	東北	富士大学	○
3	東北	仙台大学	○	3		東日本国際大学	
4	北信越	新潟医療福祉大学	○	4	北信越	新潟医療福祉大学	○
5	関東	流通経済大学		5		松本大学	○
6		駒沢大学	○	6	関東	産業能率大学	
7		明治大学		7		法政大学	○
8		法政大学	○	8		東京学芸大学	○
9		早稲田大学	○	9		山梨学院大学	○
10		筑波大学		10		東洋大学	○
11		国士館大学	○	11		駒澤大学	○
12	東海	東海学園大学	○	12	東海	東海学園大学	○
13		中京大学	○	13		静岡産業大学	○
14		名古屋学院大学	○	14		中京大学	○
15	関西	関西学院大学		15	関西	桃山学院大学	○
16		京都産業大学	○	16		関西福祉大学	○
17		びわこ成蹊スポーツ大学	○	17		大阪体育大学	○
18		阪南大学	○	18		びわこ成蹊スポーツ大学	○
19	中国	IPU環太平洋大学	○	19	中国	IPU・環太平洋大学	○
20	四国	高松大学	○	20		福山大学	
21		高知大学	○	21	四国	高知大学	
22	九州	鹿屋体育大学	○	22	九州	福岡大学	○
23		福岡大学	○	23		東海大学熊本	○
24		宮崎産業経営大学		24		日本文理大学	○
			75.0				79.2

UNIVAS 非加盟大学の中でも明治大学、筑波大学、関西学院大学等は大学スポーツに関するマネジメント部局を学内に設置し運営にあたっている。

3. 日本の大学スポーツの組織形態とマネジメント

3.1 大学スポーツを運営する組織形態

日本の大学スポーツは、大学内で課外活動として位置付けられ、学友会等学生の自治中心で運営されるケースが多い。各大学内でも個々の部として組織付けられ自治の努力を重ねているのが現状である。大学当局の関与も限定的で学内での競技横断的し全学的にスポーツ分野の運営を一体的に行う部局を置いていない大学が多いのが現状である。

UNIVAS 設立の背景にはこういった現状を鑑みて、各大学に学内での大学スポーツを統括して運営する組織であるアスレチックデパートメントの設置を促すとともに、全国高等学校体育連盟（高体連）、日本中学校体育連盟（中体連）のように大学スポーツ全体を統括する組織を設立しより発展させることを目的としている。

UNIVAS 設立以後、各大学においては学内でのスポーツを統括する部局の設置が進んでいる。大学内におけるスポーツ系部活動の大学当局の関わり方について、現在では3つのケースが

存在する。一つは大学当局が主体的に運営しているケース。アスレチックデパートメント(AD)を設置し運営しているケースがこれにあたる。筑波大学アスレチックデパートメント³、関西学院大学競技スポーツ局⁴等が先駆けて学生アスリートに対しての環境整備を進めている。2つ目は大学当局が一定の支援を行っているケース。このケースでは強化指定クラブの制定、スポーツ推薦制度の導入、環境の整備や活動資金の支出、指導者の雇用等の支援を行い強化につなげている。スポーツクラブを強化することで入学志願者の増加や大学広報活動、ブランディングにつなげている一方で、組織の運営自体はそれぞれの部にまかせられているケースが多い。3つ目のケースは学友会等で公認のみ行い、活動は原則学生の主体性にまかせているケースである。

3-2 アスレチックデパートメントの現状

「大学スポーツの振興に関する検討会議中間とりまとめ」においても大学内のスポーツ分野を統括する部局人材の必要性を説いている。その後各大学において学生アスリートの管理やスポーツを通じた大学ブランド力向上の機能を担う部局いわゆるアスレチックデパートメントを設置する大学が増えている。UNIVAS 設立以後アスレチックデパートメントの設置とともに当該部局を担う専門的な人材、スポーツアドミニストレーターを配置する大学も多くなってきている。アスレチックデパートメントの主な役割は以下の通りである。

- 1,競技面：安全対策、施設管理、強化支援、指導者人事
- 2,学業面：学業支援、キャリア支援、研究との連携
- 3,渉外面：マーケティング、広報、スポンサーシップ、行政との連携、地域貢献
- 4,管理面：財務、コンプライアンス、ガバナンス

取り組む内容については各大学で特色がある。筑波大学アスレチックデパートメントでは「最高の学校スポーツプログラムを日本社会の未来に貢献する」を使命に以下のビジョンのもと活動を進めている

- a)学校が責任を持つスポーツ活動の確立と人材育成
- b)「学校にスポーツがあることの価値」を最大化する貢献事業の創造、
- c)全国の学校に取り組みを広く共有し新たな学校スポーツを共に創り出す

各競技の有観客実施が可能となった 22 年度には大学内施設を中心に各競技のホームゲームを「TSUKUBALIVE」と称して実施。バスケットボール等の公式戦に多くの観客を集めている。

³ 筑波大学アスレチックデパートメント <https://www.tsukubaowls.com/>

⁴ 関西学院大学競技スポーツ局 <https://kgad.kwansei.ac.jp/>

また関西学院大学競技スポーツ局は「Master for Service を体現する世界市民」の育成を目指し活動している。学生の修学支援プログラムの提供、対外試合出場のための資格制度等、特に学業との両立意識した支援体制の充実を図っている。

アスレチックデパートメントの学内での位置づけは大学毎に異なる。2021年に調査された資料⁵によると主として活動している複数の運動部活動を取りまとめる組織を設置している大学が194大学。そのうち回答のあった159大学のアスレチックデパートメントの位置づけをみると、大学内専門組織として、学長直下の組織が1.8%、事務組織内が5.3%、大学事務組織の一部局が80.7%であった。また法人組織にないに設置しているケースでは理事長直下の組織が0.6%、事務組織内が0.6%、法人事務組織の一部局が4.6%であった。この結果から現状では学生部や学生課等大学組織内に既存する学生生活を担当する部署の一部として設置されているケースが多い。一方優良事例実施大学として選定された7大学においては学長もしくは理事長直下の専門組織として位置づけられている大学が4大学となる。やはり今後の大学スポーツの発展ためには大学トップ層の理解のもと学長・理事長直下の専門組織としてアスレチックデパートメントを設置することが望まれる。

また、アスレチックデパートメントの設置とともに今後求められるのがスポーツアドミニストレーター配置である。スポーツアドミニストレーターとは教育、研究、課外活動及び社会貢献を含め学内のスポーツ活動に一定の知識・経験を有しつつ、大学スポーツの事業開拓とブランド力向上を推進する力を有し、学内のスポーツ活動の企画立案、コーディネート、資金調達等を担うものである。配置される人材は大学の仕組み（ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、学事日程等）を理解した上で大学スポーツクラブと学内とあるいは外部団体と連携しながら円滑に推進することが求められる。スポーツアドミニストレーターはアスレチックデパートメント等スポーツ部活動を統括する組織の専門職員として専任で配置されるケースが多い。主な業務は大学内のスポーツに関する計画の策定、スポーツを通じた大学ブランド力の向上、大学内のスポーツに関する方針等について経営層と調整すること、スポーツを通じた地域貢献・活性化につながる活動等多岐にわたる。大学とクラブや学生アスリート、地域等との連携を図る上で今後大学においては欠かすことのできない人材であると考えられる。

スポーツ庁が公募した令和2年度及び令和3年度大学スポーツアドミニストレーター配置事業においてそれぞれ8大学採択されているが、そのうち中国地区の大学では令和2年度に広島大学、令和3年度には広島大学と徳山大学（現周南公立大学）が採択されている。広島大学では令和2年10月に「スポーツに関する教育及び研究を行い、スポーツの振興を通じて、

⁵ スポーツ庁「令和2年度大学スポーツ振興に係るシンポジウム」2021.3.1

健全な心身と教養、豊かな人間性を備えた人材の育成に資する」ことを目的にスポーツセンターを設置。合わせて2名のスポーツアドミニストレーターを配置している。それぞれは教育研究部門とアスレチックデパートメント部門の業務を担う。アスレチックデパートメント部門では特に地域貢献活動に力をいれ「UNIVAS AWARD 2020-21」スポーツ統括部局/SA賞の優秀賞に選出されている。また徳山大学（現周南公立大学）では「“地域の成長エンジン”としての大学スポーツ資源を活用した「知・徳・体」一体の地域共創拠点化事業」と称し、1地域共創センター・スポーツ振興部門を設置。合わせて1名の専属職員としての大学スポーツアドミニストレーターを配置している。学内の運動部の統括や学生アスリートの管理、スポーツ施設・設備・用具の運営管理、スポーツを通じて大学ブランド力の向上等、学内のスポーツ分野を一体的、一元的に統括する業務を担っている。特に「アスリートサポートセンター」を設置して学生アスリートの支援体制の充実を図っている。

表5 : スポーツ庁「大学スポーツ振興推進事業」選定大学一覧

令和3年度	
朝日大学	朝日大学スポーツ支援センター(ASSO)を設置し、スポーツアドミニストレータを配置 ・総合型スポーツクラブとの連携により「地域スポーツクラブのきよてんづくり」を推進し、自治体・スポーツ関係団体・民間企業とコンソーシアムを形成し、スポーツプログラムを実施
徳山大学	・学内の既存組織内にスポーツ振興部門を新設し、スポーツアドミニストレーターを配置 ・「アスリートサポートセンター」を設置し、当該施設において各種実証事業を展開
仙台大学	・学校現場の大きな課題である部活動の課題解決のための支援計画を作成し、支援を実施 ・競技団体とも連携し、クリケットを活用した“まちづくり”を実施
立命館大学	・「健康づくりコンソーシアム」を形成し、学・産・民・官による連携を推進 ・「熱中症対策講座」「草津市駅伝競走大会」を開催
関西国際大学	・ゲームを通して防災知識習得を目指す「スポーツ×防災フェス」を地域住民向けに三木市と共催 ・事業の収益化を推進し、現行のコンソーシアムを次年度にスポーツコミッションへと発展
広島大学	・東広島市、一般社団法人「みちしるべ」とコンソーシアムを形成 ・大学スポーツ資源を活用した「地域横断型福利厚生プログラム」を開発し、実施。
四国大学	・地域の小中高校生に対し、スポーツクリニックを実施するなど地域活性化に向けた取組を推進 ・「イーグレッツ(Egrets)サポーター制度」の導入等により各種取組の収益化及び自走化を推進
鹿屋体育大学	・関係団体と連携し、地域スポーツコンソーシアムBlueWinds(仮称)を形成 ・モデル事業として、「みんなのタイムトライアル」「健康増進・介護予防教室」を実施

3.3 大学スポーツクラブの法人化と資金調達

大学スポーツチームは大学内の課外活動として運営されているケースが多い。実際の運営についてはアスレチックデパートメントが既に設置されている大学については当該組織が主体となって運営している。一方現在でも多くのクラブにおいては部長、監督等クラブスタッフが運営主体となって活動もしくは所属学生による自治によって活動を進めている。部活動については成果活動ではなく課外活動として捉えられており、責任の所在の不明瞭さ、活動における安全管理体制の不備、会計制度の未整備など大学本体の管理外であるがゆえのガバナンスに関する問題も生じている。これらの問題を解決しより発展的な活動ができる体制が前述したアスレチックデパートメントを含めた学内でのスポーツ活動を統括する部局の設置である。一方個別の大学スポーツチームが独自に法人格を持ち、チームの運営やマネジメント

等を担うケースも徐々にではあるが増えてきている。特にチーム強化を推進したいクラブにとって大きな課題は資金調達である。これまでの大学スポーツクラブの主な収入源は1, 所属学生の部費、2, OBOG 会費、3, 大学・後援会等からの補助となる。また、主な支出は強化費、遠征等活動費、外部指導者への手当支給等となる。限られた資金の中で強化をすすめるには限界があり、逆に資金が潤沢なクラブについてはよりきめ細やかな強化策をすすめることができる。また、部長、監督、コーチに代表されるクラブの指導スタッフは通常の練習及び公式戦等での指導・引率だけでなく、大学・競技団体など外部団体との調整、施設管理、財務管理等組織運営業務も多岐にわたる。さらに地域貢献活動、資金調達、ブランディング、広報活動、選手スカウティングなどより幅広いマネジメント業務も求められている。指導スタッフに業務が集中することで責任の重責も背負う同時に、権限集中による組織の閉鎖性を生み出す事となる。法人格を持つことでマネジメント業務についてはクラブ運営法人が担い、選手及び指導スタッフは強化活動により集中しやすい環境を構築することができる。表6は現在法人格を取得している大学スポーツチームの一覧である。

表6 : 法人格を持つ大学スポーツチーム

大学・部	法人名	設立年度	主な目的
東京大学アメリカンフットボール部	(一社)東大ウォーリアーズクラブ	2017年	支援団体としての法人・部からの業務委託
京都大学アメリカンフットボール部	(一社)京都大学アメリカンフットボールクラブ	2016年	国立大学法人京都大学が参画 マネジメント
信州大学アメリカンフットボール部	(一社)信州アメリカンフットボールフットボールクラブWILDCATS	2022年	OBが主体 資金調達が主たる目的
慶應義塾大学ラグビー部	(一社)慶應ラグビークラブ	2018年	日本ラグビー界へ寄与、慶應ラグビーの強化
明治大学サッカー部	(一社)明大スポーツマネジメント	2020年	明治大学サッカー部及びOB支援

京都大学、東京大学、そして信州大学のアメリカンフットボール部の事例では、国立大学としての性格上大学として個別の部活動に対して顕著に支援を行うことは難しい。そこでクラブが個別に法人格を取得することで信頼性の向上とともにマネジメントの健全化と強化のための外部資金の導入を目的としている。京都大学アメリカンフットボール部の場合、京都大学自体が社員として参画し、財務・経理・指導者人事の透明化を図り、活動資金、寄付金募集による長期にわたる自主財源を獲得することで安定した経営を目指している。東京大学アメリカンフットボール部の事例では部本体は東京大学運動会に所属したまま、OB 中心に支援団体としての一般社団法人を設立しガバナンス体制の徹底を図る。アメリカンフットボール部と法人間で契約を結び、部活動における資金計画の策定と実行、経理関連業務、監督の任免、コミュニケーション業務等を請け負う形となっている。明治大学サッカー部⁶のケースでは明治大学サッカー部を支援する法人として設立。特徴として現役学生支援だけでな

⁶ 一般社団法人明大スポーツマネジメント <https://msm.or.jp/>

く、Jリーグ等プロに進んだOB選手のマネジメント業務も請け負っている。

3.4 大学スポーツとスポンサーシップ

近年大学スポーツにおいても企業からのスポンサーシップによって資金を獲得する事例が増えてきている。スポーツにおけるスポンサーシップは、スポーツコンテンツをスポンサーに提供し、対価を得ることにある。大学スポーツではユニフォーム広告等による露出型と地域貢献活動等への協賛、その他支援等形式は様々なである。企業側にとっては露出による広告宣伝の目的あるいはCSR活動の一環として大学スポーツにスポンサードできる。大学スポーツ競技連盟においても大会でのユニフォームへのスポンサー広告を解禁し始めるなど企業側も支援しやすい環境が整いつつある。例えば東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）では2021年度第97回大会より出場校のユニフォーム広告が解禁⁷。青山学院大学の妙高市、明治大学のサトウ食品など民間企業・自治体などとスポンサー契約を結んでいる。また関東学生アメリカンフットボール連盟⁸は2021年シーズンよりユニフォームへの広告掲載を認めている。早稲田大学はメルセデス・ベンツ、住ゴム産業、東京大学にはビズリーチ、富士フィルムなどスポンサー契約を締結している。さらに関東大学バスケットボール連盟では2020年にユニフォーム広告を解禁し、1部に所属する筑波大学では大樹生命、東海大学ではサン・クロレラ、ロックアイスより支援を受けている。

また大学側のメリットとしてはスポーツチームに対しての資金獲得だけでなく、産学連携活動としてあるいは地域貢献活動を共に行えるなどのメリットが考えられる。さらに学生が主体的に企業に対して営業活動やスポンサーアクティベーションを行うことで、マネジメント能力の向上につながる効果もある。特に国立大学において大学スポーツチームと企業とのスポンサーシップが増えているのが特徴的である。

4、福山大学における大学スポーツの可能性

今後更に大学スポーツを発展していくためには、大学としてスポーツ活動の強化の目的や意味・目標を明確にし、その方針に沿った強化策を進めていく必要があると考える。文部科学省が平成29年に取りまとめた「大学スポーツの振興に関する検討会議最終とりまとめ」によると大学におけるスポーツの振興には、国民の健康増進や地域・経済の活性化等に資する可能性を有するなど、公共的役割を担う可能性があるとしている。大学スポーツは入学生確保

⁷ 日本陸上競技連盟「競技会における広告及び展示物に関する規定」

⁸ 関東学生アメリカンフットボール連盟「ユニフォームへの広告掲載について」

や知名度向上など大学としてメリットだけでなく、地域活性化等社会に貢献していく存在として発展していくことが求められる。そこで本学における大学スポーツ振興に関わる今後の展開について検討してみる。

4.1 大学スポーツ振興の目的の共有

本学ではスポーツ系のクラブとして 25 クラブが実働している。そのうち強化指定を受けているクラブがサッカー部、硬式野球部、剣道部、柔道部の 4 クラブである。この 4 クラブは専門的指導者を配置し、それぞれのクラブが目標を個別に目標を設定し活動を行っている。今後大学スポーツを全学的な取り組みとして位置づけるためにまずは大学本体としてスポーツを強化する意味や目的を明確にする必要がある。建学の精神や教育理念・教育目的を踏まえた上でスポーツ強化の指針・ビジョン等が明確になれば各クラブとのその方針に従って強化を進めていくことができる。方針が明確になることでクラブの指導者と学生の所属する学部学科教員と連携した形で学生アスリートの指導・支援が行えるとともに、スポーツ活動に対する理解の大学全体での意識の醸成にもつながると考える。また、指導スタッフに対しても大学側が大学スポーツに対する方針を伝え、そのポリシーに沿って学生を指導してもらうよう伝えることも重要である。さらに強化指定クラブの制定・環境整備、スポーツ推薦入試を含めたアドミッションポリシーも改めて検討する必要がある。

4.2 アスレチックデパートメント的組織の設置とスポーツアドミニストレーターの配置

現在各体育系クラブは文化系サークルと同様に課外活動として「学友会」所属となり学生主体の自治によって成り立っている。今後は体育系サークル、もしくは強化指定クラブについては大学当局に統括する部局を設置し、運営マネジメントを行うことが望まれる。「学友会」所属であれば個別のクラブが単体で活動しているため目的や目標も一致せず横のつながりも希薄になる。またある意味閉鎖的な環境であるため、部長・監督以下指導スタッフに権限と責任が集中し負担も大きい。従って大学スポーツをより発展的に成長させるためには新たに学内に大学スポーツの統括部局の設置が必要である。本学においては教学組織の中で研究所施設として、大学教育センター、国際センター、社会連携センター等学長直下の部局が設置されている。これら組織と並列な形で「(仮) スポーツ振興センター」として独立させマネジメントを担当する。学長直下の組織としてセンター長には担当副学長を配置し、以下担当教職員(クラブ指導スタッフを含む)を配属するとともに専門職員としてスポーツアドミニストレーターを配置し、大学スポーツのマネジメント全般を担当する。主な業務は 1、学生支援：教育支援、キャリア支援、2、クラブ支援：環境整備、指導者人事、強化策、経理、資金調達 3、広報ブランディング：情報発信、メディア、外部団体との連携 4、地域貢献活動：

地域との連携、施設開放、指導者派遣などを担当する。学生アスリートがより安心安全な状態でスポーツ活動に励むことのできる環境整備と各クラブの組織マネジメントを担うことでより健全に発展することができると思う。学生アスリートもスポーツ活動だけでなく、学生の本分である学業についても積極的に取り組めるような意識の醸成やそれを促す規定の作成も必要である。またクラブ運営に関する会計管理も個別のクラブに任せるのではなく、大学の会計と統合し適切な予算を執行できる体制作りも重要である。スポーツ庁によるUNIVAS 設立準備委員会での「大学スポーツ振興に向けた学内整備のための手引書」においても会計の透明性の確保が必要とされている。さらに各クラブの大学施設を利用したホームゲームについて本部局と学生課等が連携し広報、集客、ライブ配信等運営マネジメントを担当することも考えられる。大学スポーツの発展において危機管理体制の構築も含めたガバナンス体制の整備は大変重要であり、これらを管轄する部局としてアスレチックデパートメントの設置が急務であると思う。

4.3 大学スポーツの広報活動

表7は関東及び中国地区大学に所属するスポーツクラブのSNS フォロワー数である。一般的に中国地区のフォロワー数は少ない傾向にある。本学においてはサッカー部が twitter、Instagram とも 1000 人を超え検討しているものの、全国的には多いとはいえない。野球部、剣道部、柔道部についてはクラブからの情報発信はほぼないのが現状である。一方大学全体においても大会結果や全国大会壮行式等のイベントについて学長室ブログなどでの発信はあるものの、各クラブの大会結果、活動報告等は見受けられない。IPU 環太平洋大学などは大学 HP に体育会専用ページを設け毎週の試合結果等随時更新をしている。大学の広報活動、ブランディングの観点からも今後は積極的な情報発信が求められる。

表7 :大学スポーツチームのSNSフォロワー数_関東(2022.11.1現在)

野球	twitter	instagram	facebook
慶応義塾大学	13000	9945	7504
東京大学	8925	3079	4180
法政大学	5023	4368	4513
明治大学	14000	4960	
立教大学	11000	5116	4610
早稲田大学	11000	6763	

ラグビー	twitter	instagram	facebook
慶応義塾大学	7595		
早稲田大学	20000	15000	
明治大学	16000	14000	

サッカー	twitter	instagram	facebook	youtube
明治大学	15000	2382		797
法政大学	9115	3839	1455	1250
中央大学	8518	2473	928	172
慶応義塾大学	7699			
早稲田大学	11000	4666	1736	1710
筑波大学	12000	5205	2880	4970
流通経済大学	11000	3529		

駅伝	twitter	instagram	facebook	youtube
青山学院大学	106000	49000	19010	4840
駒沢大学		39000		

表8 : 大学スポーツチームのSNSフォロワー数_中国地区(2022.10.22現在)

中国大学サッカー連盟1部所属チーム

	twitter	instagram	facebook	youtube
IPU環太平洋大学	3947	3941	1005	742
吉備国際大学	976	600	708	131
福山大学	1439	1082	2117	282
福山平成大学	154	523	486	
広島大学	889	829	577	
広島修道大学	571	751		
広島経済大学		519	1029	
広島文化学園大学	20	521		
山口大学	795	274		
周南公立大学	919	720		

広島六大学野球連盟所属チーム

	twitter	instagram	facebook
広島大学	644	917	
広島経済大学	221	1203	
広島修道大学	640	613	
広島工業大学	333	298	
近畿大学工学部		695	

中国六大学野球連盟所属チーム

	twitter	instagram	facebook
IPU環太平洋大学	2826	2138	112
吉備国際大学	1701	1112	
至誠館大学	164		
広島文化学園大学	398	301	
周南公立大学		977	
東亜大学	79	756	74
福山大学(2部)		334	

5 まとめ

2019年に報告した「UNIVAS 設立後の大学スポーツの展開に関する一考察」の第二報的意味合いを含め3年経過後の大学スポーツの現状についてまとめてみた。コロナ禍も徐々に終息し、スポーツ活動も通常に戻る中、大学スポーツ全般は UNIVS を中心により発展的に成長している。加盟状況自体の変化はそれほど見られないが、大会のライブ配信、学生アスリートのキャリアアッププログラム、ITを活用したアスリート管理、安心安全な活動を支える環境整備などより学生のニーズに応える戦略的な取り組みを行っている。また、個別の大学を見ても学内へのアスレチックデパートメントの設置大学も増加しているとともにスポーツアドミニストレーターの配置を含め大学全体でスポーツを振興担うケースが増えてきている。例えば筑波大学では筑波大学アスレチックデパートメントを中心に「TSUKUBALIVE」と称したホームゲームを主催し運営。スポーツ競技や所属の枠を超えた学生が「企画・運営」に参加し「学校におけるホームゲーム構想」の実現に向け、イベントの設計から運営まで実務を担当。当日はコロナの影響で学内関係者のみの参加となったが、男子バスケットボール部及び水球部のホームゲームに300名以上のファンを集めている。大学スポーツを中心に学生教職員、地域の住民を巻き込んだ新たな文化の創造の可能性を示している。

本学では強化指定クラブを中心に全国大会出場等成果を残してはいるものの、大学での一体となった取り組みには至っていない。またクラブの組織マネジメントに関しても個別クラブに依存している。そこで学内の大学スポーツに関する理解と発展を目指した意識の醸成と、ガバナンス体制の構築のためにそれらを統括してマネジメント業務を担当するアスレチックデ

パートメントの設置を提案した。大学におけるスポーツ活動の位置づけと目標を明確にし、学生アスリートと指導スタッフがより安心安全に活動できる環境整備を行うことで、更に価値を向上できると考える。そして大学スポーツを中心に学内の一体感を生み出すとともに、地域や外部団体とも連携し新しいスポーツ文化を作り出すことで大学全体のブランディングにつながると思われる。最後に今後本学においても大学スポーツに関する環境整備が進み学生たちの活動がさらに充実するとともに社会的な評価が高まることを望むものである。

参考文献

- 飯田祥明 (2017) 「大学体育会における組織強化に向けた取り組み～上智大学バスケットボール部の事例」『上智大学体育』
- 一般社団法人大学スポーツ協会 (2020) 「UNIVAS 設立初年度の歩み」
- 一般社団法人大学スポーツ協会 (2021) 「UNIVAS 大学スポーツ処分事例集 (競技団体編) ～組織ガバナンスの強化に向けて」
- スポーツ庁 (2018) 「大学スポーツ振興に向けた学内整備の手引書」大学横断的かつ競技横断的統括組織 (大学スポーツ協会) 設立準備委員会 (第3回) 配布資料
- スポーツ庁 (2021) 「令和2年度大学スポーツ振興に係るシンポジウム」 配布資料
- スポーツ庁・広島大学、徳山大学 (2021) 「大学スポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業成果報告書」
- 高木英樹、山田晋三、佐藤荘二郎 (2020) 「筑波大学アスレチックデパートメント発足の経緯とその足跡」『大学体育研究』 Vol.42:37-46
- 西機 真 (2018) 「流通経済大学における大学スポーツ振興に関する一考察」『流通経済大学スポーツ健康科学部紀要』 Vol.11
- 樋口俊多 (2022) 「日本の大学におけるスポーツビジネスの現状と課題」～国立大学の体育会部活動団体の法人化に着目して～『日本文化論年報』 Vol.25 81-124
- 松田亮 (2019) 「広島経済大学におけるスポーツマネジメントについて アスレチックデパートメント構想への提案」『広島経済学研究論集』 Vol.42
- 吉本忠宏 (2022) 「課外活動におけるスポーツコーチングに関する研究」—不測の事態におけるトレーニング施設の整備に注目して—『甲南大学教育学習支援センター紀要』 Vol.7 15-29

A Study on Organizational Management in University Sports

Takashi Yoshida

Japan Association for University Athletics and Sport (UNIVAS) was established in 2019 with the aim of further developing university sports and strengthening the governance system. In the corona disaster, we are forced to manage the organization and the operation of the tournament with an emphasis on infection control. Beginning this academic year, university clubs and circle activities have resumed as usual, albeit gradually, and the students' devotion to sports has returned to campus. In order to achieve the original purpose for which UNIVAS was established, the development of university sports, it is essential to reinforce the management system of sports organizations in each university and sports association.

Therefore, in this paper, I would like to understand the efforts of UNIVAS and each sports organization, which has been established for three years, and to examine the management of sports organizations at each university.